

平成 26 年 1 月 14 日

# 南の風 54

南部ミニバスケットボール連盟  
会 長 藤原 敬一

2014 オールジャパン選手権大会の観戦記を書きます。

やっぱり、お正月は「**オールジャパンを観なきゃ**」ですね。元日の日は、初詣の帰りに、星澤純一HC率いる羽田ヴィッキーズの応援と、永田台ビーバースのOGである、柳瀬さつき（大学3年）選手が活躍している専修大学の応援に、大田区総合体育館に行ってきました。大田区総合体育館は、羽田ヴィッキーズのフランチャイズです。横浜からのアクセスもよいので、ぜひ皆さんも羽田ヴィッキーズを応援してあげてください。

さて、肝心のゲームの方ですが、両チームともめでたく勝利することができました。ヴィッキーズは、西南女学院大学に72対59で勝ち、専修大学は、アカシヤクラブ（北海道代表で、元富士通で活躍した、船引かおり、まゆみ姉妹が所属している）に71対44で勝ちました。見事一回戦突破です。ヴィッキーズは、現在WJBLでは11位ですが徐々にチーム力が上がり、これから始まるレギュラーシーズンの後半戦が楽しみです。因みにヴィッキーズには、稲本選手（元富士通）や森本選手（元シャンソン）そして、小松選手（元新潟アルビレックス）が活躍しています。

2回戦目は、専修大学はWJBLの日立ハイテッククーガーズとの対戦でした。

戦評風に書きます。1ピリから専修大学は、日立ハイテクのゾーンをパスで崩し得点を重ねる。1ピリは19対14で専修大学がリードする。2ピリは専修大学のプレスが機能し、日立ハイテクは攻めあぐむ展開となる。2ピリを終わって32対27で専修大学が5点リードする。3ピリに入ると、専修大学の柳瀬選手（ビーバースOG）のプレスの引っかけや、3Pポイントによる連続得点でリードを広げる。しかし地力に勝る日立ハイテクは、7番と35番のシュートで蘇り、3Pも決まりだす。3ピリの後半から流れが日立ハイテクに行き、専修大学は一時同点に引き戻すも、35番のインサイドが決まり勝負が着いた。専修大学58対日立ハイテク64の僅差であった。なおこのゲームで柳瀬さつき選手は16得点し、両チームを通じてリーディングスコアラーとなった。

羽田ヴィッキーズの2回戦目の相手は、同じWJBLのアイシン・エイ・ダブリュ・ウィングスです。

高さに勝るアイシンが0番、11番（諏訪選手元エナジー）のインサイド、また9番のドライブインで主導権を握る。ヴィッキーズは、11番森本、55番小松が粘りシュートを決める。45対32でアイシンリードで前半を終える。後半は、11番森本のドライブインなど3連続ゴールで6点差まで詰め寄る。しかし、アイシンは、11番諏訪の力強いインサイドのポストプレイで立て直す。ヴィッキーズは、オールコートプレスから速い展開で攻撃し、31番、7番の3Pで追い上げる。11番森本の3Pで再び6点差まで引き戻すがそこまで。79対71でアイシン・エイ・ダブリュ・ウィングスが逃げ切った。ヴィッキーズにとっては惜しいゲームだった。

ゲーム全体を通して、星澤HCの戦術の巧みさを見ることが出来ました。それは、オフェンスではスクリーンプレイ（如何にノーマークでシュートするか）に、ディフェンスでは、プレスの使い方（流れを変える）に表れていました。次回は男子の準決、女子の決勝を検証したいと思います。